

④ 魚類の生息環境を改善して 川や魚を守る



- 黒川漁協小来川支部では、鳥類による食害の緩和をはかるため、**釣り人**との力カシ作りや、地元**猟友会**への捕獲要請を行っています。

- 鬼怒川漁協日光支部では国土交通省日光砂防事務所と連携して、治水事業の勉強会の開催や渓流魚の生息環境の復元に向けた取り組みを実施しています。



- 同支部では日光市立清滝小学校と共に、地元の川のイワナを増やすため、隠れ家づくりなど、生息環境の改善に向けた活動を行っています。

- これらの活動を通して、小学校の児童からイワナを守り・増やして欲しいとの要望が漁協にあげられ、同支部では**イワナ資源の保全**のための禁漁区を設置しました。



放流が効果を発揮する条件とは？

稚魚(幼魚含む)放流においても適切な条件や場所を実施すれば、その効果を期待できます。
研究成果の一部をご紹介します。

適切な放流時の体サイズとは？

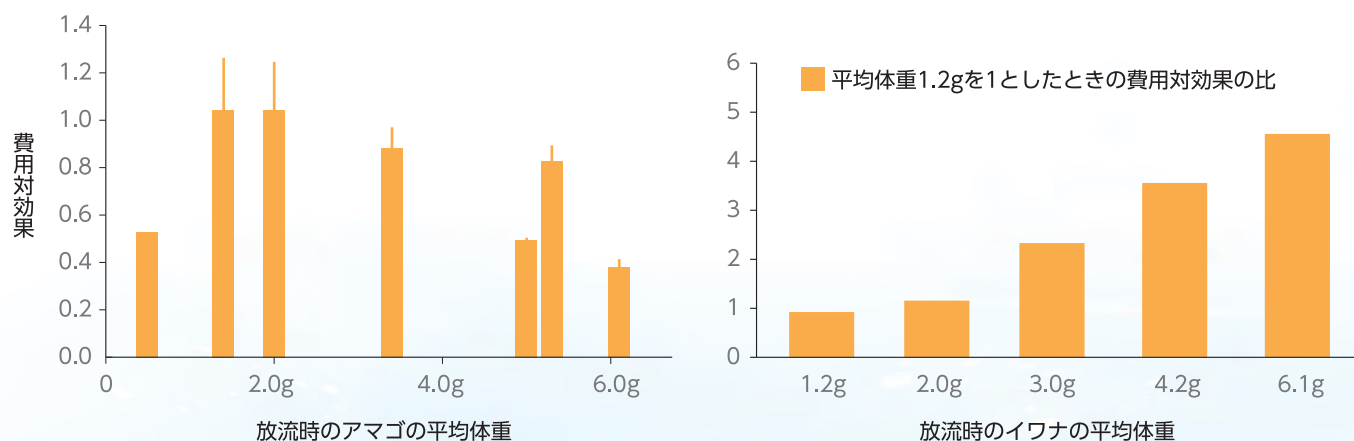


図15 アマゴ(左)とイワナ(右)における種苗サイズと費用対効果の関係

- 春放流において、アマゴでは体重**2g前後**の種苗、イワナでは体重6g程度の**大型種苗**で費用対効果*4が高いことがわかりました。

*4 体長15cmの魚をより多く、より安価で漁場に残すことができる確率(費用対効果は、稚魚の販売単価によって異なる場合があります)。

先住魚がいると放流魚は暮らせない!?



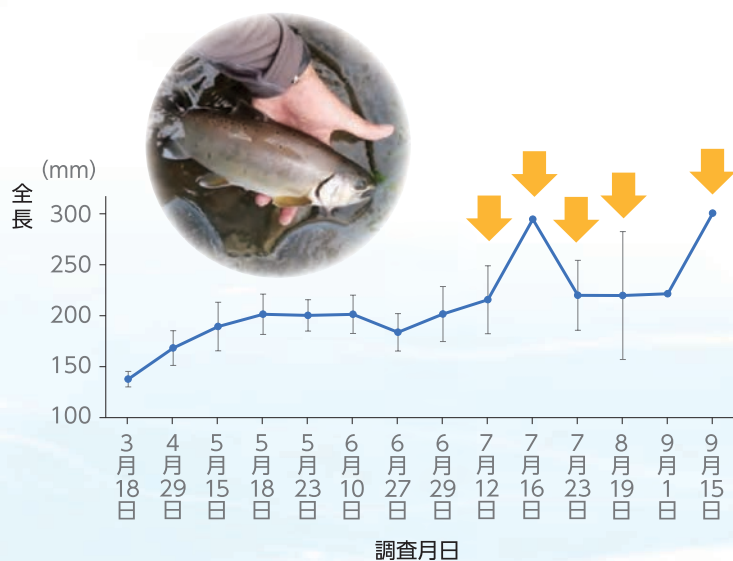
- なわばりを持つ魚(先住魚)が生息する水路に稚魚を放流した結果、約7割の放流魚が水路から**追い出されて**しまいました。



エレクトロフィッシャーによる
外来魚除去の様子

- 栃木県の河川では、先住魚のブラウントラウト（外来魚）を除去することで、放流したイワナの**生き残り**が10倍以上も改善し、イワナの漁場を復元できました。

魚のいなくなった漁場を改善



↓ は釣獲調査で全長30cm以上の放流魚が釣れた日

図16 釣獲した放流ヤマメの全長の推移

- かつてヤマメ釣りが盛んであった栃木県鬼怒川（宇都宮市）では、洪水や乱獲等で魚が減少しました。

- ヤマメ幼魚を放流した結果、釣れた魚の97%が放流魚で、かつ**大型に成長**した放流魚が釣れる漁場となりました。

まとめ

洪水、乱獲および外来魚の除去等によって先住魚が**いなく・少なくなった**場所に、適切なサイズの魚を放流すれば良好な成長や生き残りが期待できます。

先住魚（稚魚）のを見つけ方については、右のQRコードから動画【効果的な放流方法を見つけるために「稚魚を見つけてみよう」】をご覧ください。

※稚魚の採捕には都道府県知事の許可が必要です。

【効果的な放流方法を見つけるために
「稚魚を見つけてみよう」】



<https://youtu.be/6ko4l0R2uY4>